

# シンポジウム 1-5 (補綴)

## 精密補綴治療

小林 実

こばやし歯科クリニック (大阪府)

補綴治療において審美領域の処置は歯肉縁下にフィニッシュラインを設定する必要があり、より繊細な処置が要求される。支台歯形成においては、歯肉縁下でよりスムーズなフィニッシュラインを形成し、歯周組織を傷つけないように処置をする必要がある。印象採得では歯肉溝内に気泡を混入しにように注入しなければならない。セット時には歯肉縁下に残った余剰セメントを歯周組織を傷つけず完全に除去する必要がある。こういった一連の処置において拡大化で行うことは大きなメリットがある。そういった目的でマイクロスコープを使用することはおおきなメリットになる。しかしながら支台歯形成においての原理原則、基本的な技術が伴っていないかと思うような結果は得られないし、マイクロスコープを覗くことを優先しすぎて、まちがったポジショニング、グリップ、レストのまま処置をおこなえばマイクロスコープ下の処置がかえって大きな負担になってしまう。普段私が補綴治療において時に気をつけている点や、器具などを紹介し、マイクロスコープの臨床への導入のひとつの参考になるよう解説したいと思う。

大阪歯科大学卒

大阪市開業

日本歯内療法学会 専門医 代議員、

西日本歯内療法学会理事

日本臨床歯科医学会大阪支部 (大阪SJCD) 会長

大阪SJCD研修会ベーシックコース コースディレクター

大阪SJCD研修会エンドコースおよびマイクロエンドコース 講師